

中小企業景況調査報告書 (福井県商工会地域)

平成30年 7月～ 9月実績

平成30年 10月～12月見通し

福井県商工会連合会

I. 景況調査の概要

1. 調査目的 この調査は、経営指導員による訪問面接調査により福井県商工会地域中小企業の経済動向について一定時期ごとに迅速・的確に収集、提供して、経営改善普及事業を効果的に実施するものです。
2. 調査方法 経営指導員による訪問面接調査
3. 対象地区 あわら市、坂井市、永平寺町、福井東、福井北、福井西、越前町、越前市（池田町）、南越前町、わかさ東、おおい町（高浜町）の計11商工会
4. 対象企業数 165企業（1商工会15企業）
5. 回答企業数 165企業（回答率100.0%）
6. 調査対象期間 平成30年7～9月期実績及び平成30年7～9月期見通し
7. 調査時点 平成30年9月1日（土）
8. 回答企業内訳

	調査対象企業数		有効回答企業数		有効回答率 (%)
製造業	38	23.0%	38	23.0%	100.0%
建設業	24	14.5%	24	14.5%	100.0%
小売業	51	30.9%	51	30.9%	100.0%
サービス業	52	31.5%	52	31.5%	100.0%
合計	165	100.0%	165	100.0%	100.0%

9. DI値（ディフュージョン・インデックス、景気動向指数）

企業の景気動向を示す指標です。各調査項目について＜増加・上昇・好転＞の割合からDI値がプラスなら強気（楽観）、マイナスなら弱気（悲観）となります。

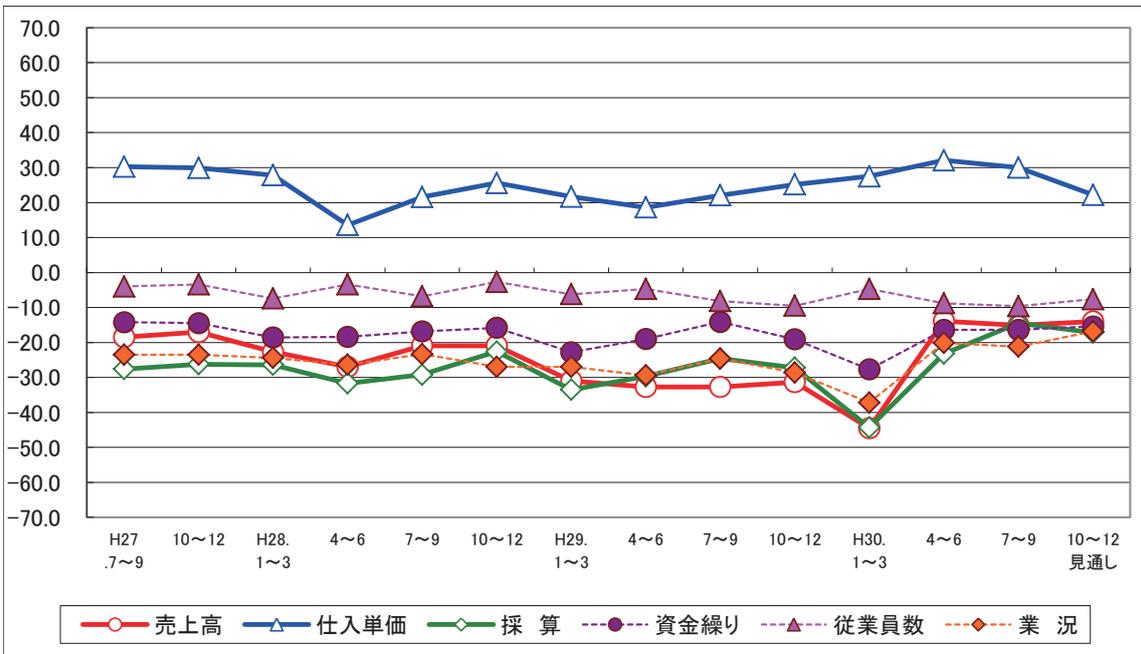
$$DI（数式） = （上昇企業数 - 低下企業数） \div 回答企業数 \times 100$$

10. 分析執筆者 福井県立大学 地域経済研究所長 教授 南保勝氏

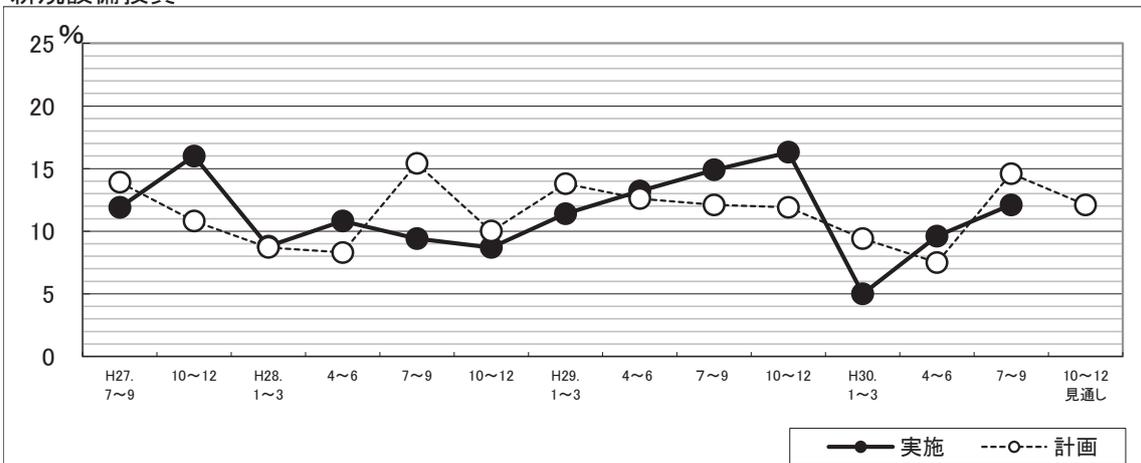
全体(福井県商工会地域中小企業)の景況

景気動向推移(前年同期比:DI値)

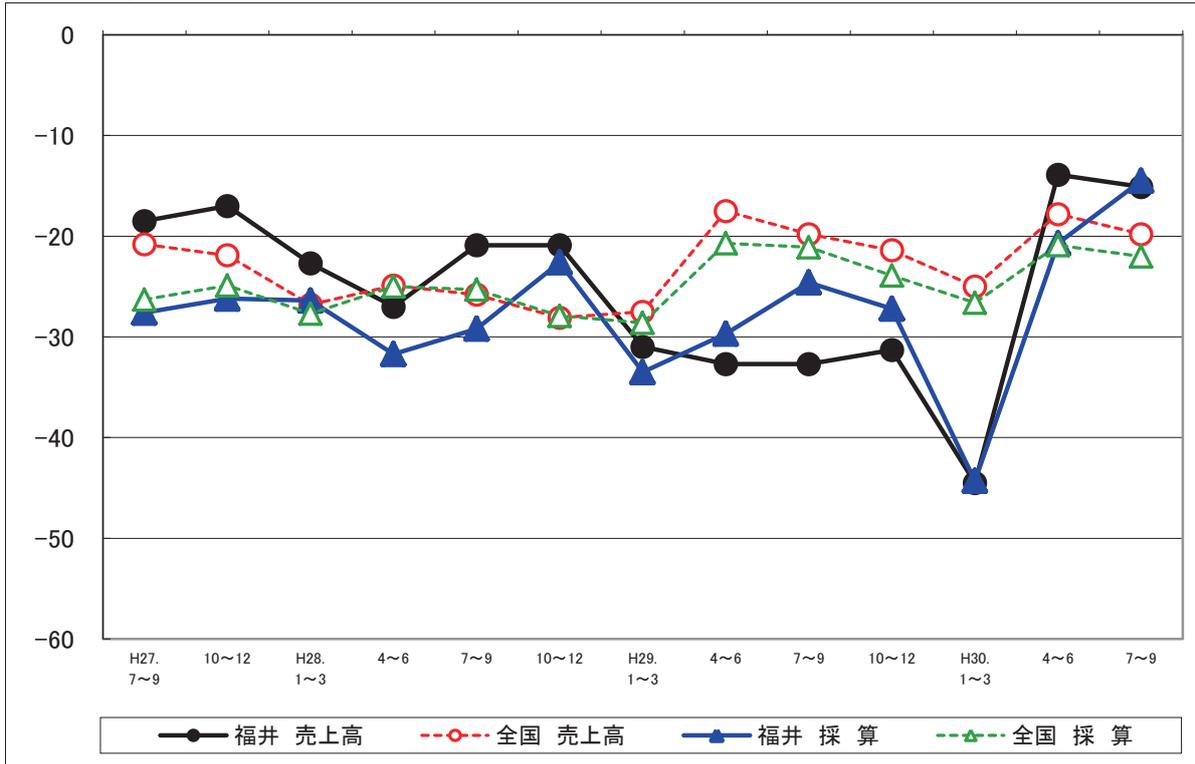
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H27.7~9	▲ 18.5	30.3	▲ 27.6	▲ 14.2	▲ 4.0	▲ 23.5
10~12	▲ 17.0	29.9	▲ 26.2	▲ 14.5	▲ 3.4	▲ 23.5
H28.1~3	▲ 22.7	27.8	▲ 26.4	▲ 18.6	▲ 7.4	▲ 24.4
4~6	▲ 27.0	13.6	▲ 31.7	▲ 18.4	▲ 3.4	▲ 26.4
7~9	▲ 20.9	21.6	▲ 29.2	▲ 16.8	▲ 6.8	▲ 23.3
10~12	▲ 20.9	25.6	▲ 22.6	▲ 15.8	▲ 2.7	▲ 27.0
H29.1~3	▲ 31.0	21.7	▲ 33.5	▲ 22.8	▲ 6.2	▲ 27.0
4~6	▲ 32.7	18.6	▲ 29.7	▲ 19.0	▲ 4.7	▲ 29.4
7~9	▲ 32.7	22.1	▲ 24.6	▲ 14.1	▲ 8.2	▲ 24.6
10~12	▲ 31.3	25.2	▲ 27.2	▲ 19.1	▲ 9.5	▲ 28.6
H30.1~3	▲ 44.5	27.5	▲ 44.3	▲ 27.7	▲ 4.7	▲ 37.2
4~6	▲ 13.9	32.1	▲ 23.2	▲ 16.4	▲ 8.8	▲ 20.1
7~9	▲ 15.1	30.0	▲ 14.5	▲ 16.4	▲ 9.6	▲ 21.2
10~12見通し	▲ 14.0	22.2	▲ 17.2	▲ 15.4	▲ 7.6	▲ 16.8



新規設備投資



全国DIと福井県DIとの対比グラフ



全体の景況

平成30年7～9月期の福井県経済を概観すると、需要面として、百貨店・スーパー販売が全体では緩やかに回復しているほか、ドラッグストア販売が飲食料品に動きがみられることなどから好調に推移。コンビニエンスストアやホームセンターなどでも堅調を維持するなど、個人消費はゆるやかな回復が続いている。一方、供給面でも、一部地場産業で不冴えながら、電子部品・デバイスでスマートフォン向けを中心に拡大しており、全体でも回復している。

こうした中、今期（H30年7～9月期）の景況調査をみると、全体では景況感を示すDI値6項目のうち2項目で改善、1項目で横這い、残り3項目で悪化となった。ちなみに、改善した項目は、仕入単価（逆指数）（前期32.1→今期30.0）、採算（前期▲23.2→今期▲14.5）。横這い項目が、資金繰りの（前期▲16.4→今期▲16.4）。悪化した項目は、売上（前期▲13.9→今期▲15.1）、従業員数（前期▲8.8→今期▲9.6）、業況（前期▲20.1→今期▲21.2）であった。今回の調査結果で言えることは、その下げ幅は僅かとはいえ悪化傾向を示す項目が半数を占めた事実から、県内中小企業の経営環境は、概ね回復基調にあるとはいえ、いまだ業況が安定している企業は少ないことがわかる。ただ、先行き（H30年10～12月期）については、6項目中5項目で改善傾向を示している。

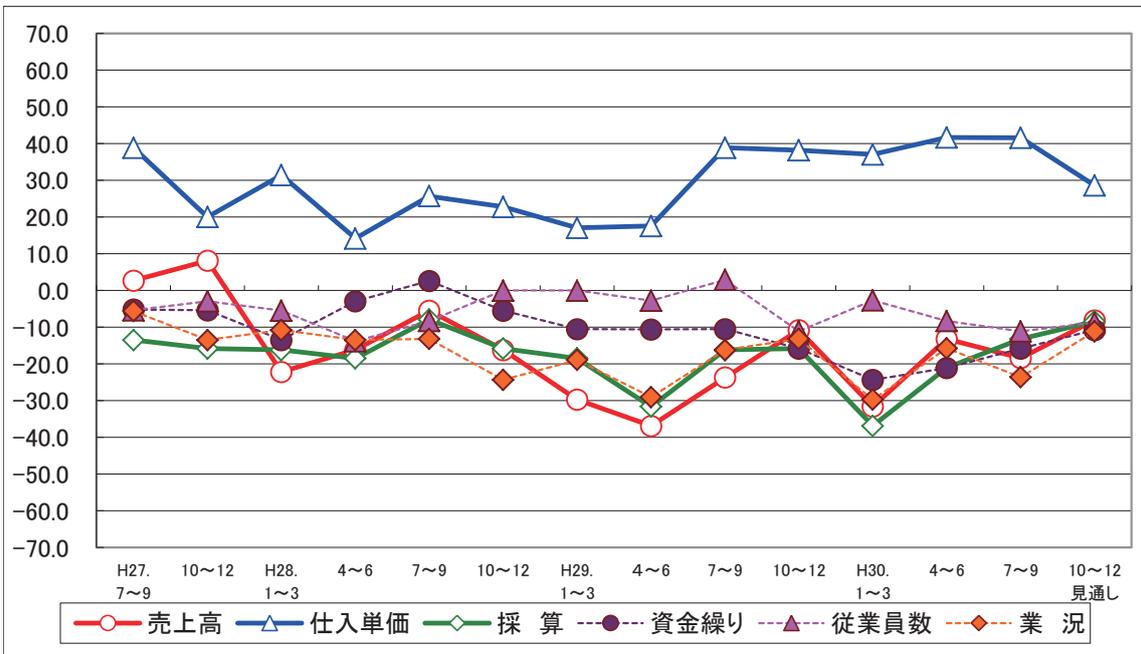
一方、売上高と採算のDI値を全国と比較すると、売上高は全国、福井県ともに悪化しているが、その下げ幅は福井県が小さい。採算については、福井県が改善、全国が悪化となっている。

そのほか、今期の新規設備投資については、何らかの設備投資を計画している企業ウエイト14.6%に対して実施した企業ウエイトが12.1%と、実施が計画を下回っている。また、先行き（H30年10～12月期）については計画が12.1%となっており、まずまずの投資マインドが持続されるものと思われる。

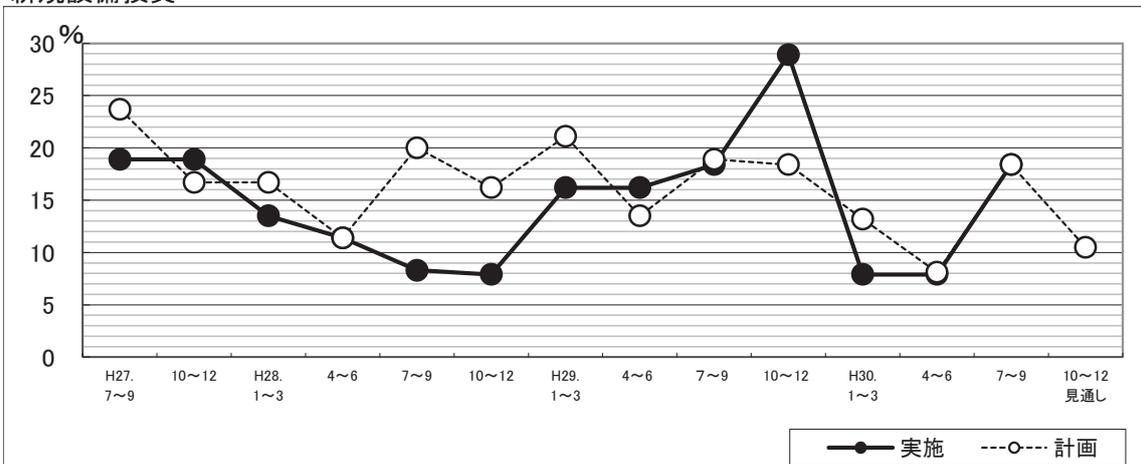
製造業(福井県商工会地域中小企業)の景況

景気動向(前年同期比:DI値)

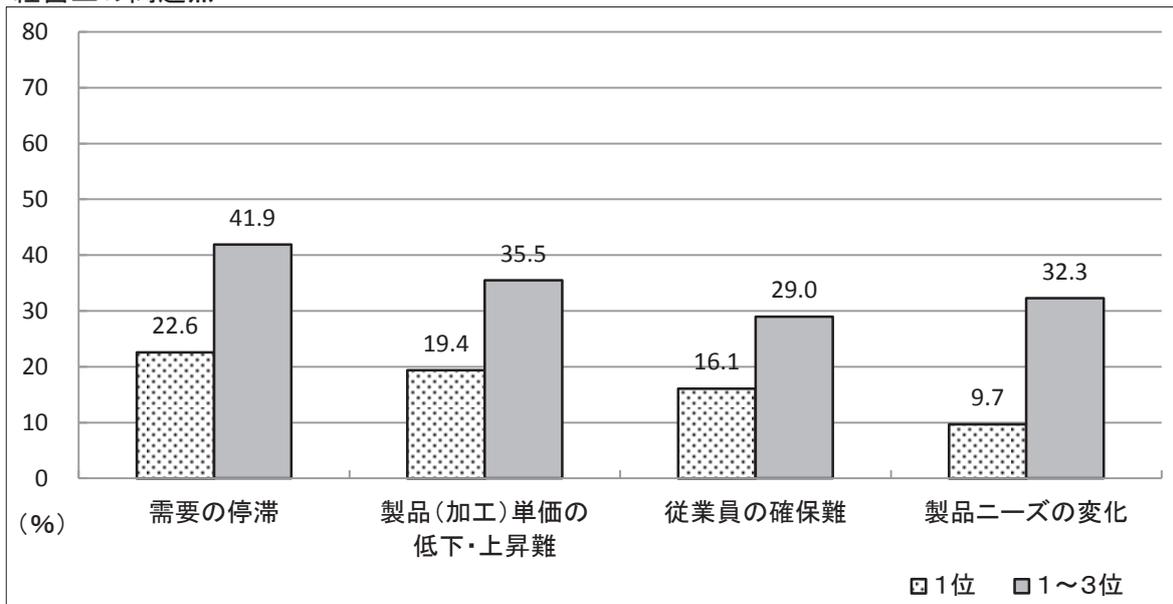
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H27.7~9	2.7	38.9	▲ 13.5	▲ 5.2	▲ 5.4	▲ 5.6
10~12	8.1	20.0	▲ 15.8	▲ 5.4	▲ 2.9	▲ 13.5
H28.1~3	▲ 22.2	31.4	▲ 16.2	▲ 13.5	▲ 5.5	▲ 10.8
4~6	▲ 16.2	14.2	▲ 18.5	▲ 2.9	▲ 13.8	▲ 13.5
7~9	▲ 5.5	25.7	▲ 7.9	2.6	▲ 8.3	▲ 13.2
10~12	▲ 16.2	22.8	▲ 15.8	▲ 5.5	0.0	▲ 24.3
H29.1~3	▲ 29.7	17.1	▲ 18.5	▲ 10.5	0.0	▲ 18.9
4~6	▲ 36.9	17.6	▲ 31.6	▲ 10.6	▲ 2.8	▲ 29.0
7~9	▲ 23.7	38.9	▲ 16.2	▲ 10.5	2.9	▲ 16.2
10~12	▲ 10.8	38.2	▲ 15.8	▲ 15.8	▲ 11.1	▲ 13.2
H30.1~3	▲ 31.6	37.1	▲ 36.9	▲ 24.3	▲ 2.7	▲ 29.7
4~6	▲ 13.2	41.7	▲ 21.0	▲ 21.1	▲ 8.3	▲ 15.7
7~9	▲ 18.4	41.6	▲ 13.2	▲ 15.8	▲ 11.1	▲ 23.6
10~12見通し	▲ 8.1	28.6	▲ 8.4	▲ 10.8	▲ 8.8	▲ 11.1



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・仕事はあるが、人がいない状況である
- ・企業間の引き合い、取引は減少しているが、個人ユーザーからの受注、引き合いは盛んである

製造業の景況

最近の県内製造業を概観すると、地場産業では引き続き厳しい展開が続いているが、生産キャパに見合う受注高を確保し概ね順調に推移、特に繊維は非衣料向けが順調となっており、全体でも緩やかに持ち直しつつある。ただ、眼鏡枠では、国内向け、海外からのOEM受注ともに弱い動きとなっている。そのほか、化学、プラスチックなどでは受注環境に品目による格差が見られるものの、主力の電子部品・デバイスがスマートフォン向けを中心に、輸送機械などでも自動車変速装置部品を中心に緩やかに拡大傾向を維持している。そのため、全体としては、緩やかな拡大が続いていると言える。

こうした中、今回の景況調査をみると、景況感を示すDI値6項目のうち3項目で回復傾向となった。ちなみに、各項目の動きをみると、売上高が前期▲13.2→今期▲18.4へ、仕入単価（逆指標）が前期41.7→今期41.6へ、採算が前期▲21.0→▲13.2へ、資金繰りが前期▲21.1→今期▲15.8へ、従業員数が前期▲8.3→今期▲11.1へ、業況が前期▲15.7→今期▲23.6へと変化している。また、先行き（H30年10-12月期）については、6項目中全てで改善予測が立てられている。

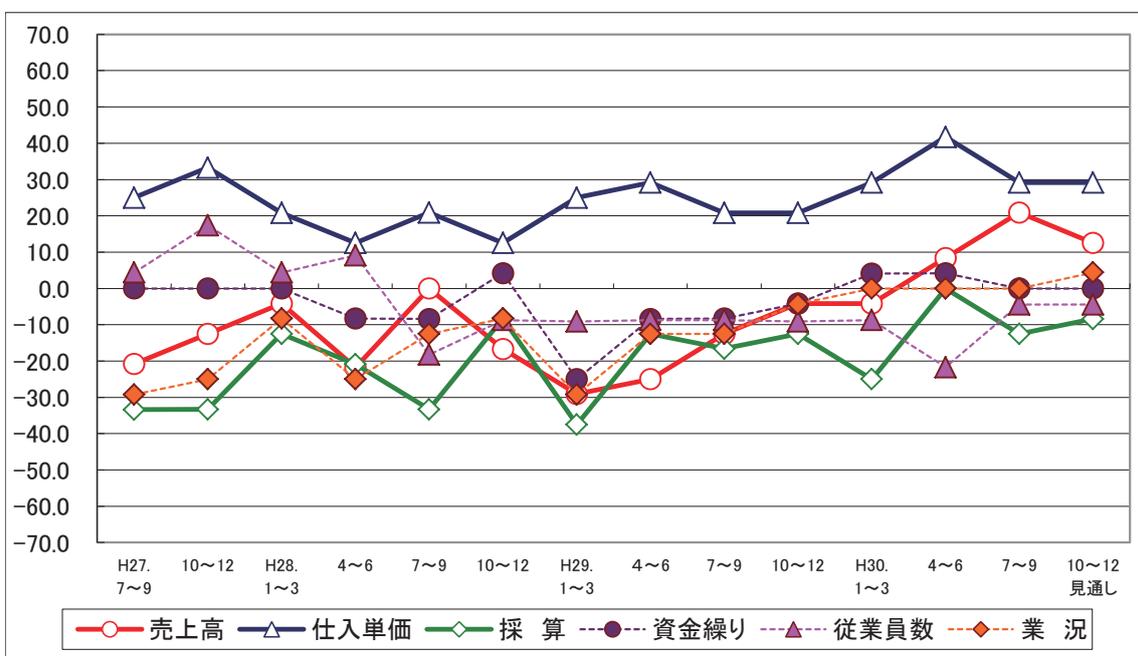
一方、新規設備投資の状況については、計画の18.4%に対し実施が18.4%と順調な投資状況となった。また、先行き（H30年10-12月期）については、何らかの投資を予定する企業が10.5%となり、投資マインドはやや失速することが予想される。

最後に、経営上の問題点については、1位に挙げた企業ウエイトが「需要の停滞」で最も多く22.6%（1位～3位までに挙げた企業41.9%）を占めた。次いで、「製品単価の低下・上昇難」が19.4%（1位～3位までに挙げた企業35.5%）となっている。そのほか、個別の見解として、「仕事はあるが、人がいない状況である」といった人手不足の問題や、「企業間の引き合い、取引は減少しているが、個人ユーザーからの受注、引き合いは盛ん」といった明るい声も寄せられている。

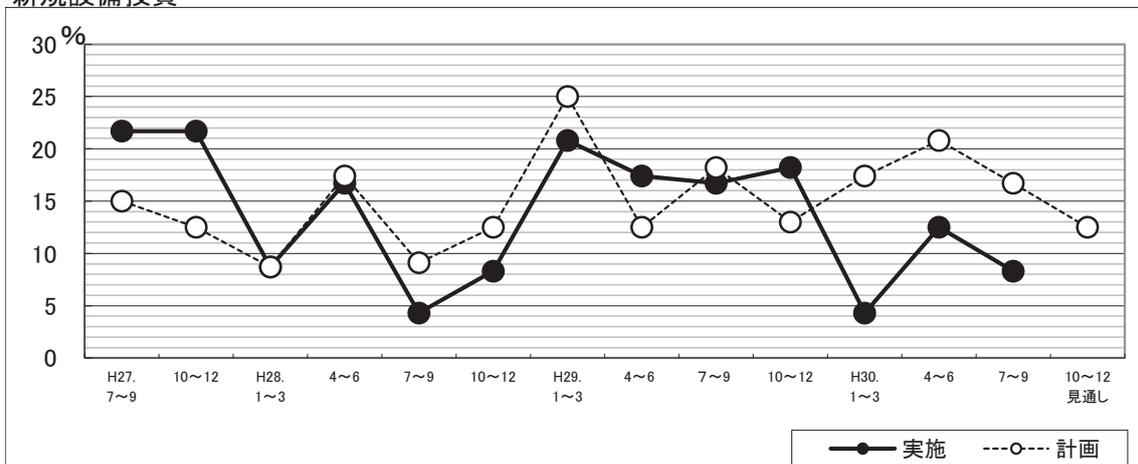
建設業(福井県商工会地域中小企業)の景況

景気動向(前年同期比:DI値)

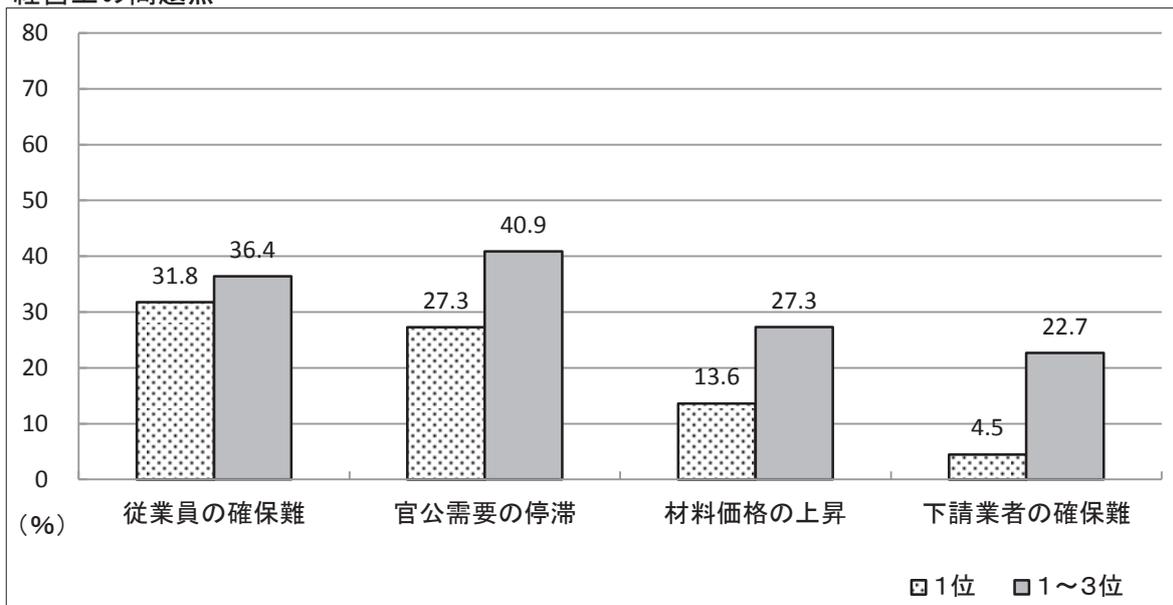
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H27.7~9	▲ 20.8	25.0	▲ 33.4	0.0	4.4	▲ 29.2
10~12	▲ 12.5	33.3	▲ 33.3	0.0	17.4	▲ 25.0
H28.1~3	▲ 4.2	20.8	▲ 12.5	0.0	4.4	▲ 8.3
4~6	▲ 21.8	12.5	▲ 20.9	▲ 8.3	9.1	▲ 25.0
7~9	0.0	20.9	▲ 33.3	▲ 8.4	▲ 18.2	▲ 12.5
10~12	▲ 16.7	12.5	▲ 8.3	4.2	▲ 8.7	▲ 8.3
H29.1~3	▲ 29.1	25.0	▲ 37.5	▲ 25.0	▲ 9.1	▲ 29.2
4~6	▲ 25.0	29.2	▲ 12.5	▲ 8.4	▲ 8.7	▲ 12.5
7~9	▲ 12.5	20.8	▲ 16.6	▲ 8.3	▲ 8.7	▲ 12.5
10~12	▲ 4.2	20.8	▲ 12.5	▲ 4.2	▲ 9.1	▲ 4.3
H30.1~3	▲ 4.2	29.2	▲ 25.0	4.1	▲ 8.7	0.0
4~6	8.4	41.7	0.0	4.2	▲ 21.7	0.0
7~9	20.9	29.2	▲ 12.5	0.0	▲ 4.4	0.0
10~12見通し	12.5	29.2	▲ 8.4	0.0	▲ 4.4	4.4



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・消費増税前の駆け込みの住宅工事は増加している。全産業において人手不足は顕著である
- ・昨年度の災害の仕事で現場では手が追いつかない程の状態

建設業の景況

福井県内における平成30年度（H30年4月～H30年9月期）の公共工事発注状況（資料：東日本建設業保証株式会社）をみると、請負金額は累計で999億76百万円の前年同期比16.8%増、発注件数は同2,049件の同0.7%増となっている。これを主な発注者別で見ると、独立行政法人等の関連工事で411億28百万円の同48.6%増、県関連工事等で289億84百万円の同13.3%増、国家関連工事で68億56百万円の同13.0%増となったものの、主力の市町村関連工事では217億72百万円の同13.3%減となり、前年実績を下回っている。一方、住宅投資については、平成30年4月～8月までの5か月累計で、前年同期比15.7%増の1,682戸であった。ちなみに、利用関係別では主力の持家が前年同期比3.3%増の1,089戸、貸家と同42.2%増の448戸となっている。

こうした中で今回の景況調査をみると、景況感を示すDI値6項目中、業況（前期0.0→今期0.0）で横這いになったほか、仕入単価（逆指数）（前期41.7→今期29.2）と従業員数（前期▲21.7→今期▲4.4）で改善、採算（前期0.0→今期▲12.5）、資金繰り（前期4.2→今期0.0）の2項目で悪化となるなど、項目によるバラツキが見られた。また、先行き（H30年10～12月期）については、仕入単価、資金繰り、従業員数で横ばい予想となった以外、残り3項目では改善予想となっている。

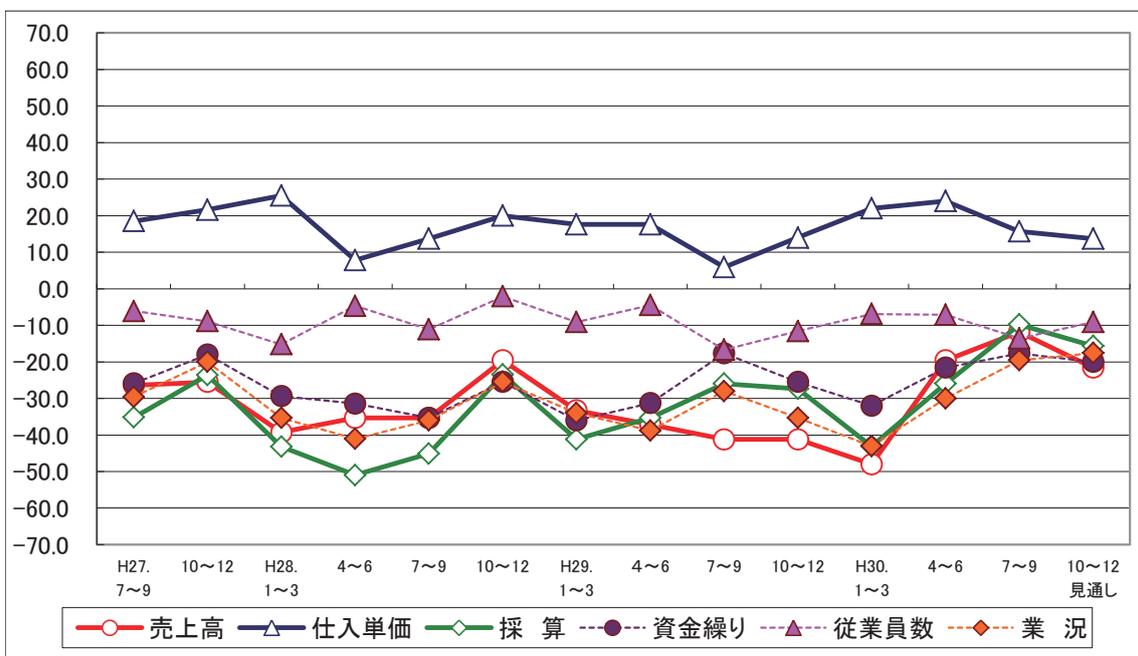
一方、今期の新規設備投資については、計画した企業16.7%に対し実施した企業が8.3%と低調であった。また、先行き（H30年10～12月期）については何らかの投資計画を持つ企業が12.5%となり、ほぼ横ばいの推移が予想される。

最後に、経営上の問題点については、「従業員の確保難」が1位に挙げた企業ウエイト31.8%、1位～3位までに挙げた企業36.4%を占め、最多となった。個別の見解としては、「消費増税前の駆け込みの住宅工事は増加している。全産業において人手不足は顕著である」、「昨年度の災害の仕事で現場では手が追いつかない程の状態」といった声が聞かれた。

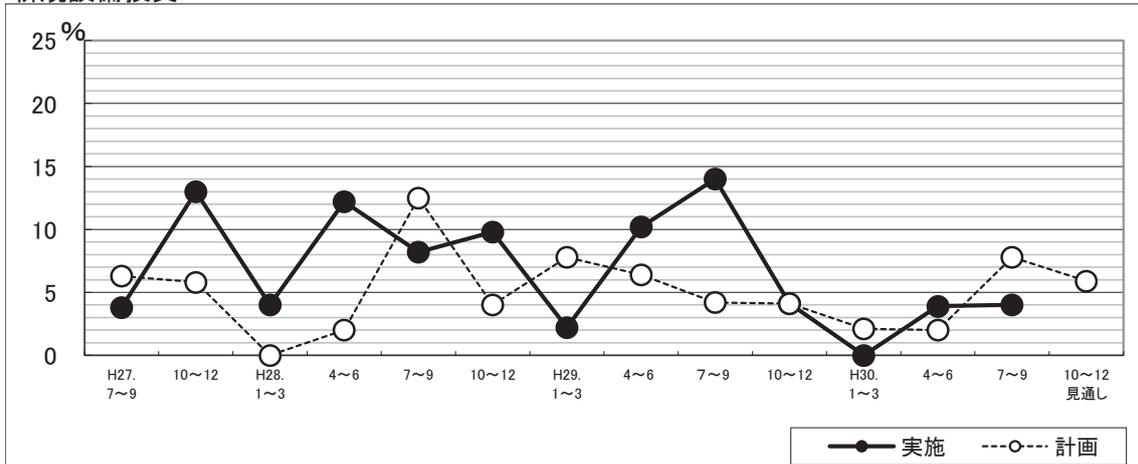
小売業(福井県商工会地域中小企業)の景況

景気動向(前年同期比:DI値)

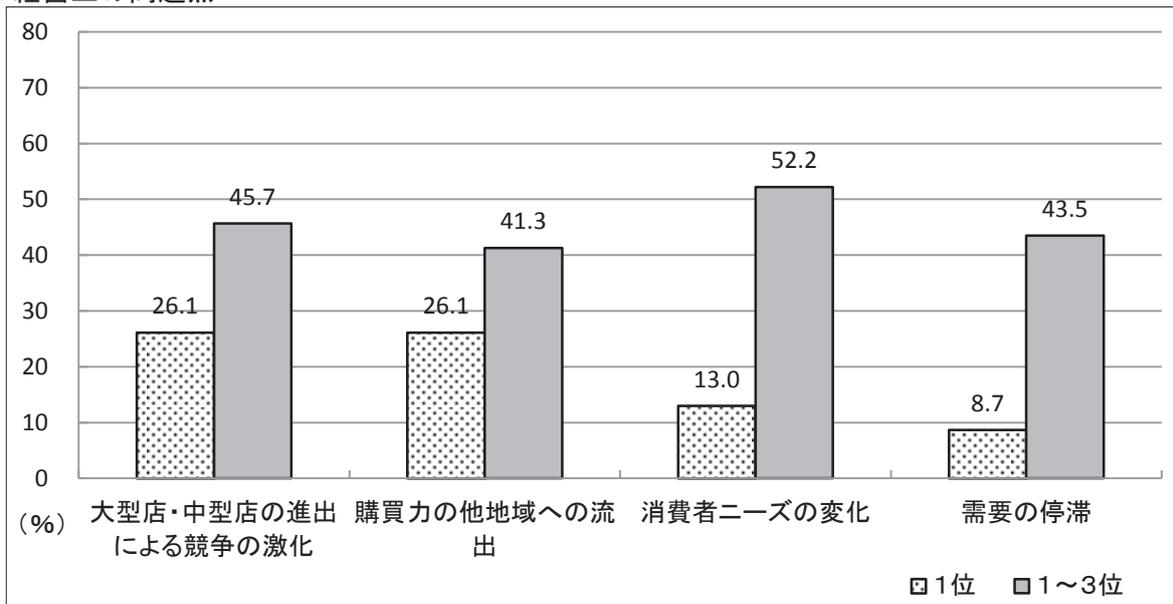
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H27.7~9	▲ 26.4	18.5	▲ 35.2	▲ 25.9	▲ 6.1	▲ 29.6
10~12	▲ 25.5	21.6	▲ 23.6	▲ 18.0	▲ 8.9	▲ 20.0
H28.1~3	▲ 39.3	25.5	▲ 43.2	▲ 29.4	▲ 15.2	▲ 35.3
4~6	▲ 35.3	7.8	▲ 51.0	▲ 31.4	▲ 4.7	▲ 41.1
7~9	▲ 35.3	13.7	▲ 45.1	▲ 35.3	▲ 11.1	▲ 36.0
10~12	▲ 19.6	20.0	▲ 23.5	▲ 25.5	▲ 2.1	▲ 25.5
H29.1~3	▲ 33.3	17.6	▲ 41.2	▲ 36.0	▲ 9.1	▲ 34.0
4~6	▲ 37.2	17.6	▲ 35.3	▲ 31.3	▲ 4.5	▲ 38.8
7~9	▲ 41.2	5.9	▲ 26.0	▲ 17.7	▲ 16.7	▲ 28.0
10~12	▲ 41.2	14.0	▲ 27.4	▲ 25.5	▲ 11.6	▲ 35.3
H30.1~3	▲ 48.0	22.0	▲ 43.1	▲ 32.0	▲ 6.9	▲ 43.1
4~6	▲ 19.6	24.0	▲ 26.0	▲ 21.6	▲ 7.1	▲ 30.0
7~9	▲ 11.8	15.7	▲ 9.8	▲ 17.7	▲ 13.6	▲ 19.6
10~12見通し	▲ 21.6	13.7	▲ 15.7	▲ 20.0	▲ 9.1	▲ 17.6



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・時代の変化が早く、お客様の求めるものの形態が変わり、今まで売っていたものが全く売れなくなっている
- ・7月の豪雨により国道が崩落事故で通行止めになった影響で、下記繁忙期の海水浴客・観光客の入り込みが大幅に減少した。冬の繁忙期に向けて一日も早い復旧を願う

小売業の景況

最近の小売商況を外観すると、雇用・所得環境の改善が続く中、概ね改善傾向が続いている。ちなみに、百貨店・スーパーは、衣料品の動きが不冴えながら、食料品などに動きがみられることから堅調を持続。ドラッグストア、コンビニエンスストアやホームセンターなどでも引き続き売上を伸ばしている。一方、家電大型専門店販売は、パソコンなどの動きが鈍いものの、白物家電等に動きがみられることから緩やかに持ち直している。参考までに、近畿経済産業局が公表する7月、8月の大型店売上高（百貨店＋スーパー、全店ベース）を見ると、7月が前年同月比2.4%増の6,141百万円、8月が同2.2%増の6,533百万円と堅調な推移となった。

こうした中、今回の景況調査では、景況感を示すDI値6項目中、従業員数で悪化となった以外、5項目で改善を示している。ちなみに、項目別の状況をみると、売上高が前期▲19.6→今期▲11.8、仕入単価（逆指数）が前期24.0→今期15.7、採算が前期▲26.0→今期▲9.8、資金繰りが前期▲21.6→今期▲17.7、従業員数が前期▲7.1→▲13.6、業況が前期▲30.0→今期▲19.6となっている。また、先行き（H30年10－12月期）については、3項目で改善、3項目で悪化となり、景況感の予想にバラつきが出ている。

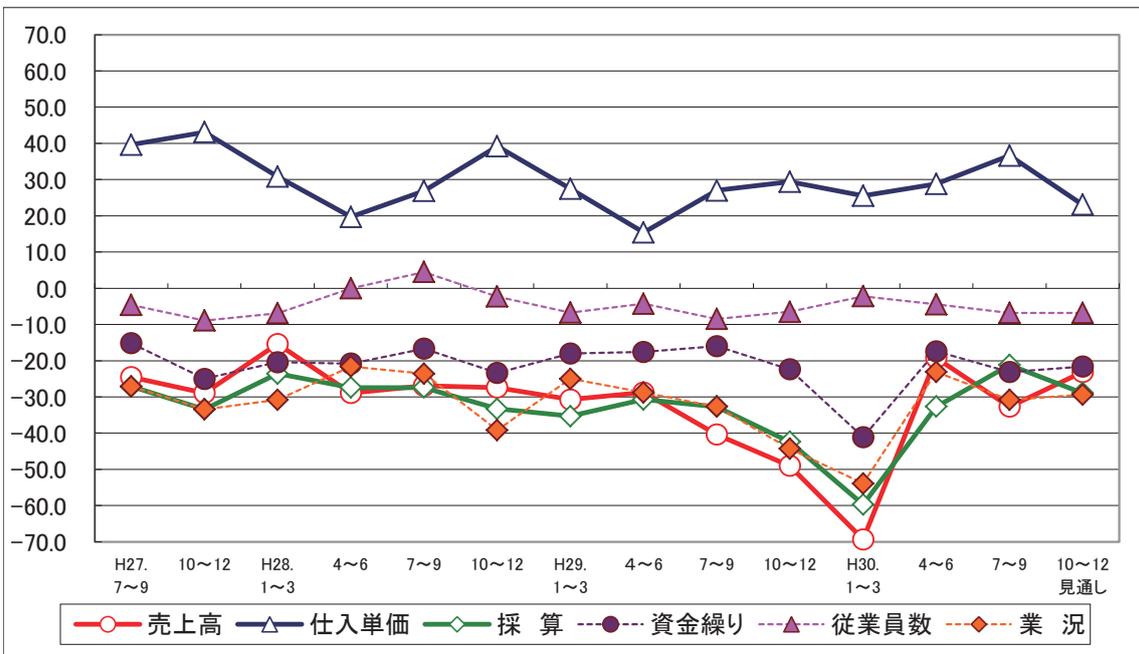
一方、新規設備投資の状況については、今期、計画の7.8%に対し実施は4.0%と低調な推移が続いている。先行き（H30年10－12月期）についても、何らかの投資を計画する企業ウエイトが5.9%にとどまっている。

最後に、経営上の問題点については、「大型店・中型店の進出による競争の激化」が最も多く、1位に挙げた企業ウエイト26.41%、1位～3位までに挙げた企業45.7%となった。また、個別の見解としては、「時代の変化が早く、お客様の求めるものの形態が変わり、今まで売っていたものが全く売れなくなっている」、「7月の豪雨により国道が崩落事故で通行止めになった影響で、下記繁忙期の海水浴客・観光客の入り込みが大幅に減少した。冬の繁忙期に向けて一日も早い復旧を願う」などの声が聞かれた。

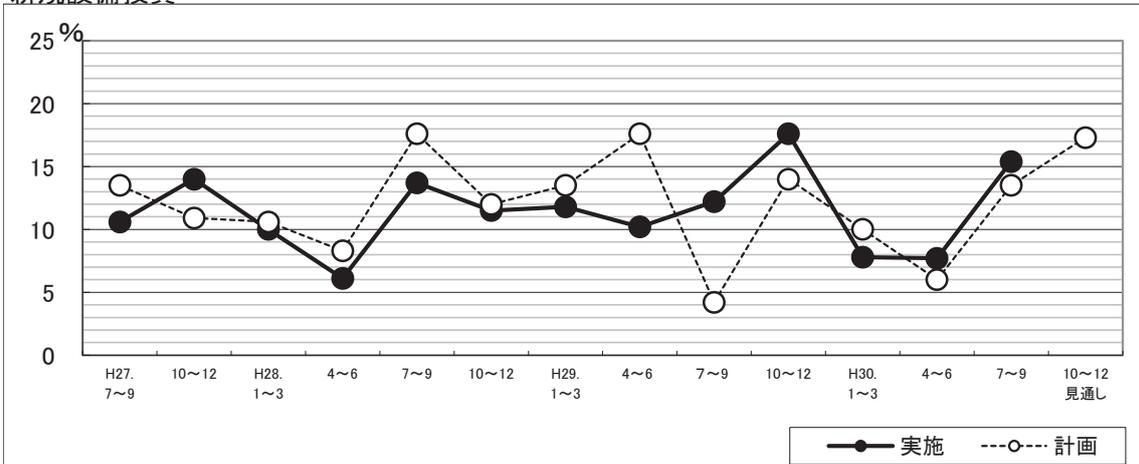
サービス業(福井県商工会地域中小企業)の景況

景気動向(前年同期比:DI値)

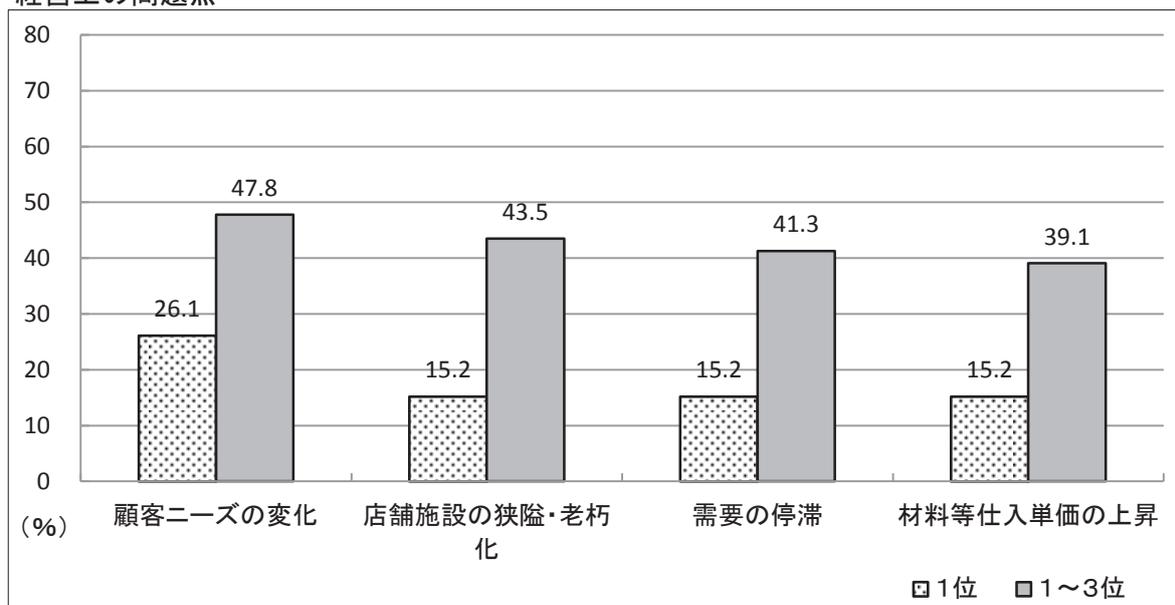
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H27.7~9	▲ 24.5	39.6	▲ 27.1	▲ 15.2	▲ 4.6	▲ 27.1
10~12	▲ 28.9	43.1	▲ 33.4	▲ 25.0	▲ 8.9	▲ 33.4
H28.1~3	▲ 15.4	30.8	▲ 23.6	▲ 20.4	▲ 6.9	▲ 30.8
4~6	▲ 28.9	19.7	▲ 27.4	▲ 20.8	0.0	▲ 21.6
7~9	▲ 26.9	26.9	▲ 27.4	▲ 16.7	4.5	▲ 23.6
10~12	▲ 27.4	39.2	▲ 33.3	▲ 23.4	▲ 2.3	▲ 39.2
H29.1~3	▲ 30.7	27.5	▲ 35.3	▲ 18.0	▲ 6.7	▲ 25.0
4~6	▲ 28.8	15.4	▲ 30.7	▲ 17.6	▲ 4.3	▲ 28.8
7~9	▲ 40.4	27.0	▲ 32.7	▲ 16.0	▲ 8.5	▲ 32.7
10~12	▲ 49.0	29.4	▲ 42.4	▲ 22.4	▲ 6.5	▲ 44.3
H30.1~3	▲ 69.3	25.5	▲ 59.7	▲ 41.1	▲ 2.2	▲ 53.9
4~6	▲ 19.2	28.8	▲ 32.7	▲ 17.4	▲ 4.4	▲ 23.1
7~9	▲ 32.7	36.6	▲ 21.2	▲ 23.1	▲ 6.8	▲ 30.8
10~12見通し	▲ 23.1	23.1	▲ 28.9	▲ 21.6	▲ 6.8	▲ 29.4



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・顧客の高齢化により、来店回数が減少している。空いた時間を有効活用できないか思考中である
- ・メディアでは景気がゆるやかに上昇と伝えられているが、大企業だけではないかと感じる。お客様の財布の紐はまだ固い

サービス業の景況

総務省が毎月実施する「サービス産業動向調査」によると、全国における平成30年7月のサービス関連産業売上高は31.5兆円で前年同月比1.7%増と、21か月連続の増加となった。産業大分類別の動向をみると、増加した産業は「不動産業、物品賃貸業」（3.9兆円、前年同月比7.2%増）、「情報通信業」（4.6兆円、同4.0%増）など7産業。減少した産業は「生活関連サービス業、娯楽業」（4.0兆円、同5.3%減）、「宿泊業、飲食サービス業」（2.3兆円、同2.8%減）の2産業であった。また、サービス産業の従業者数は、3,072万人。前年同月比0.7%の増加となっており、増加した産業は「教育、学習支援業」（106万人、前年同月比3.1%増）、「情報通信業」（195万人、同2.2%増）など6産業。減少した産業は「宿泊業、飲食サービス業」（563万人、同0.9%減）、「生活関連サービス業、娯楽業」（265万人、同0.7%減）など3産業となっている。

こうした中、今回の景況調査をみると、福井県の場合、DI値6項目中、採算を除く5項目で悪化傾向となっている。ちなみに、項目別では、売上高が前期▲19.2→今期▲32.7、仕入単価（逆指数）が前期28.8→今期36.6、採算が前期▲32.7→今期▲21.2、資金繰りが前期▲17.4→今期▲23.1、従業員数が前期▲4.4→今期▲6.8、業況が前期▲23.1→今期▲30.8となっている。こうした状況から、県内のサービス業では、全国の動きとは異なりかなり厳しい業況が続いているほか、その悪化の状況はほかの業種と比較し極めて深刻であることがわかる。ただ、先行き（H30年10-12月期）については、採算のみ悪化予測となっており、幾分の改善も期待される。

一方、新規設備投資については、計画13.5%に対し実施が15.4%と、実施が計画を上回っている。先行き（H30年10-12月期）についても17.3%と、さらに改善が進むことが予想される。

最後に、経営上の問題点については、「顧客ニーズ変化」（1位に挙げた企業ウェイト26.1%、1位～3位までに挙げた企業47.8%）への指摘が最も多い。また、個別の見解としては、「顧客の高齢化により、来店回数が減少している。空いた時間を有効活用できないか思考中である」、「メディアでは景気がゆるやかに上昇と伝えられているが、大企業だけではないかと感じる。お客様の財布の紐はまだ固い」といった声が聞かれた。

全国・福井景気動向 平成30年7月～9月（対前年同期比：DI値）

DI値	100～15.1	15～0.1	0～-15	-15.1～ -40	-40.1～ -100
天気図					
傾向	好転	やや好転	やや悪化	悪化	大幅に悪化

業種別 / 項目別	売上額	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況	
全国	全体						
	DI値	▲ 19.8	33.9	▲ 22.0	▲ 13.2	▲ 3.8	▲ 19.7
	製造業						
	DI値	▲ 10.8	43.6	▲ 13.3	▲ 8.3	▲ 0.7	▲ 10.1
	建設業						
	DI値	▲ 9.7	37.5	▲ 14.3	▲ 4.9	▲ 4.7	▲ 8.7
	小売業						
	DI値	▲ 30.9	26.2	▲ 31.7	▲ 21.4	▲ 4.8	▲ 32.1
	サービス業						
DI値	▲ 20.5	33.0	▲ 22.6	▲ 13.2	▲ 4.6	▲ 20.4	
福井	全体						
	DI値	▲ 15.1	30.0	▲ 14.5	▲ 16.4	▲ 9.6	▲ 21.2
	製造業						
	DI値	▲ 18.4	41.6	▲ 13.2	▲ 15.8	▲ 11.1	▲ 23.6
	建設業						
	DI値	20.9	29.2	▲ 12.5	0.0	▲ 4.4	0.0
	小売業						
	DI値	▲ 11.8	15.7	▲ 9.8	▲ 17.7	▲ 13.6	▲ 19.6
サービス業							
DI値	▲ 32.7	36.6	▲ 21.2	▲ 23.1	▲ 6.8	▲ 30.8	

※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。

